

2022年5月19日

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
ポーラ・オルビスグループ健康保険組合  
株式会社カラダメディカ

## 『ルナルナ オフィス』をポーラ・オルビスグループ健康保険組合へ導入 「月経プログラム」によって女性従業員の健康を企業がサポート

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス(本社:東京都中央区 社長:鈴木郷史)と株式会社カラダメディカ(本社:東京都新宿区 社長:菅原誠太郎)は、カラダメディカ、丸紅株式会社が共同で開発し、株式会社エムティーアイと提供する働く女性の健康課題改善をサポートする法人向けフェムテックサービス『ルナルナ オフィス』について、ポーラ・オルビスグループ健康保険組合(本社:東京都品川区 理事長:小川浩二 以下、「ポーラ・オルビス健保」)の保健事業として、ポーラ・オルビスグループへ導入することに合意しました。

5月23日(月)より、同グループ内にて「月経プログラム」の利用を開始します。従業員へ医療機関と連携したオンライン診療サービスの提供を通じて、生理痛や月経前症候群(PMS)など、働く女性が直面する健康課題の改善を支援します。

### 生理中の女性従業員の業務パフォーマンスが約20ポイント向上

ポーラ・オルビスホールディングスでは、2021年7月より半年間、同社及び一部子会社の女性従業員の月経随伴症状改善を目的に、オンライン診療にて低用量ピルを処方するプログラムを実証導入しました。プログラム参加者へのアンケート調査※1では、生理に伴う体の不調がないときに発揮できる仕事の出来を100%としたとき、生理中に不調を感じている状況での自身の仕事のパフォーマンスを数値化した「仕事のパフォーマンス」に関する質問において、プログラム参加前は平均61.7%だった回答が、参加後は平均82.3%と20.6ポイントの向上が見られました。

また、低用量ピルを服用することに対しても、「満足している」87.0%、「まあ満足している」13.0%と、服用者の全員が満足している結果となり、その理由(複数回答)を聞いてみると、「月経痛が軽減した」93.8%、「経血量が少なくなった」87.5%、「生理前・生理中の不快な症状が減った」75.0%が上位に挙がりました。プログラム自体の満足度も100%となり、より多くの女性従業員の月経随伴症状の改善を目指すとともに、それにより生産性や従業員の働きやすさが向上することから、ポーラ・オルビス健保の保健事業において、『ルナルナ オフィス』を導入することが決定しました。

今後もポーラ・オルビスグループとカラダメディカは、本プログラムを通し、効果を検証しながら誰もが働きやすい職場環境の整備を進めます。

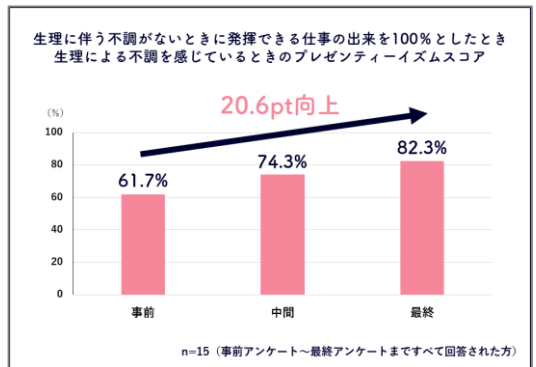


図1.オンライン診療にて低用量ピルを処方するプログラムの参加者へのアンケート調査結果

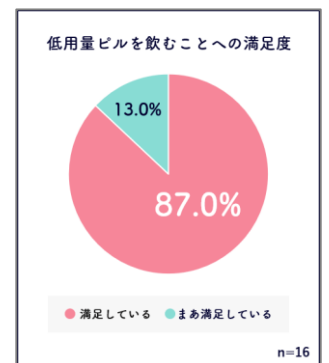


図2.低用量ピル服用に関するアンケート

※1 カラダメディカによるインターネット調査

(調査対象者:実証プログラムに参加したポーラ・オルビスグループの女性従業員 調査時期および人数:

●事前アンケート:2021年6月28日～7月8日\_32名、●中間アンケート:2021年10月14日～10月31日\_23名

●最終アンケート:2022年1月21日～2月4日\_19名)

#### 【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】

(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

広報担当 Tel 03-3563-5540/Mail webmaster@po-holdings.co.jp

※在宅勤務を推奨しておりますので、お電話が繋がらない場合はメールにてお問い合わせください。

(株)カラダメディカ

広報 Tel 03-5333-6755/Mail mtipr@mti.co.jp

## ポーラ・オルビス健保が導入する「月経プログラム」概要

「月経プログラム」とは、オンラインによる婦人科受診と診療を行い、PMS・月経困難症の改善策のひとつである低用量ピルの処方を行うサービスで、今回、ポーラ・オルビスグループが導入する『ルナルナ オフィス』の「月経プログラム」では、『ルナルナ オンライン診療』を活用した婦人科受診による症状改善のサポートや効果検証を通じ、働きやすい職場環境の構築を支援します。

### ◆株式会社ポーラ・オルビスホールディングス HR 室 佐伯 和佳奈

当社グループでは性別に関係なく一人ひとりの能力、個性を發揮できる環境づくりを推進しており、その一環として、この度、本プログラムを導入することを決定しました。

本プログラム導入前に、本プログラム参加者に限らず女性社員へ広くアンケートを実施したところ、月経時は通常時の 50%以下のパフォーマンスになっている一方、婦人科を受診したことがある方はわずか 20%程度という状況でした。会社として、本プログラムのような利便性が高いプラットフォームを提供することで、月経の悩みを抱える方が具体的なアクションを取れるきっかけになればと考えています。また、今回の施策とあわせて、婦人科医のオンラインセミナーをグループ全体で開催し、女性だけでなく多くの男性社員の方にも参加いただき、月経をタブー視しない風土を醸成するための第一歩になったと感じています。



### ◆ポーラ・オルビスグループ健康保険組合 常務理事 竹中 俊明

当健保組合は女性が 77%を占めておりますので、これまでも婦人科検診等のメニューの充実を図ってきましたが、月経随伴症状や更年期症状といった女性特有の悩みに対してアプローチが十分ではありませんでした。今回、本プログラムの実証試験において、これらの症状で悩まれる女性が多く参加されたこと、プログラムを利用した方のパフォーマンスが 20 ポイント以上改善したこと、そして利用者全員の満足度、継続利用度が高かったことから、当健保組合で正式導入することとしました。月経に悩む女性社員が参加し、日々の生活や仕事の面で良い効果が出ることを期待しています。

